

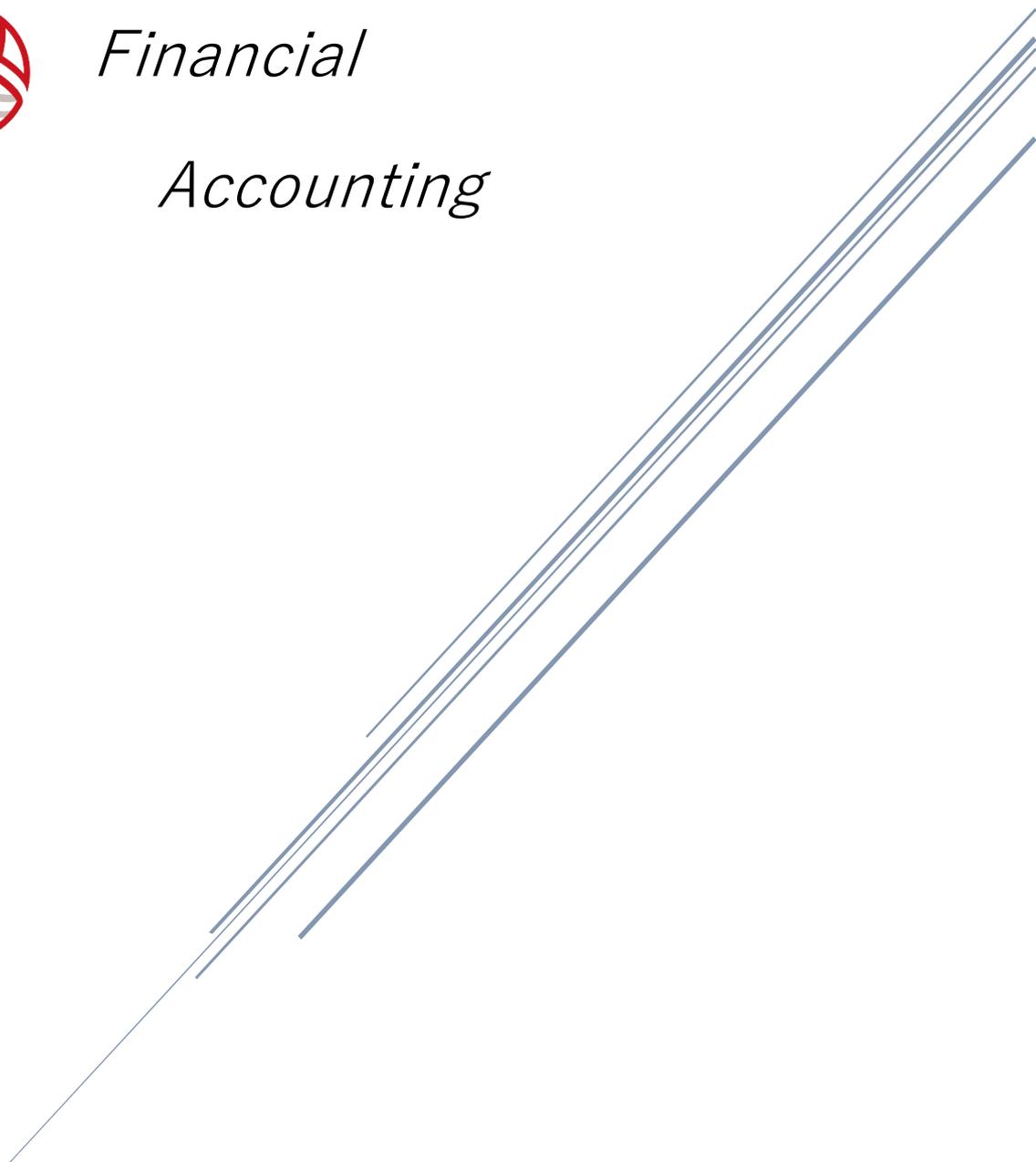
# 企業の数字に強くなる

～決算書基礎編～ 初学者向け



*Financial*

*Accounting*



## 0 はじめに

この度は本資料を手にとって下さりありがとうございます。

さて、本資料を手にした方の中にはまだ在学中の方や社会人の方、独立を目指そうとする方など様々な方がいらっしゃるかも知れません。しかし、年齢やキャリア・状況は違えど、決算書を読めるようになりたいという一心で学習を始められた点においては皆様共通しているのではなかろうかと思えます。

筆者も全く同じ想いで大学生の時に簿記一級を取得し、今日まで金融企業の経理として仕事を行って参りました。実際、決算書を読めるようになったおかげで自社の状況を分析できるようになるだけでなく、投資や転職・独立支援を行うにおいて非常に役に立ちました。また会社員として仕事を行うにおいても会社内で行われる意思決定のほとんどには会計的な根拠が存在しておりますので、経済界に身を置く限り会計は幅広く役立つ知識であると確信致しております。

しかし、このような決算書を読めるというスキルは仕事や日常生活において非常に役に立っている一方で、帳簿をつけるといった簿記の作業は現在システムが自動的に行ってくれているため、実務上はあまり役に立たない知識であると感じました。例えば仕訳を切るスキルは簿記検定の合格には必要不可欠な知識ですが、決算書を読むにあたっては全く不要な知識です。筆者は簿記の勉強に二年近く費やしてしまいましたが、決算書がある程度読めるようになることを目的とするならば、あまり時間は掛からないと思っている次第です。

以上のことを受け、本資料は会計についてほぼ未学習である方を対象に、最小限の時間で決算書を読めるようになることを目的として作成致しました。これを手にとって下さった皆様が最小限の労力である程度決算書を読めるようになり、皆様方の投資先や転職先の判断、独立や簿記の学習のきっかけに少しでもお役に立てばと願っております。

S.masato

## 目次 *contents*

---

Chapter 1 決算書の概要	・・・3
Section1 決算書とは	
Section2 貸借対照表	
Section3 貸借対照表の細かい分類	
Section4 損益計算書	
Section5 貸借対照表と損益計算書の関係	
Section6 補足論点	
Chapter 2 財務諸表分析	・・・18
Section1 重要な経営指標	
Section2 競合他社比較	
Section3 キャッシュフローの重要性	
Chapter 3 参考資料	・・・23
Section1 貸借対照表の主な勘定科目一覧	
Section2 競合他社決算書	

## Chapter 1 決算書の概要

### Section1 決算書とは

#### 1 決算書とは

本資料を手にとって下さった皆様はなぜ決算書について理解を深めたいと感じられたのでしょうか。自身が勤められている会社の業績の動向を知りたい方や、仕事の業務上決算書を読む立場になられた方、株式投資を行いたい方、中には独立したい方もいらっしゃるかも知れません。この他企業においても銀行から融資を受ける際や M&A を行う場合など様々な場面で決算書が用いられておりますが、共通しているのは皆企業の業績を知りたいということです。

世の中の企業はこれらのニーズに答えるべく一定の会計のルールに従って決算書を作成し、世に公表しています。つまり決算書とは「**企業活動を会計のルールで数字に翻訳したもの**」と言えるでしょう。**私たちが決算書を読めるようになるためにはこの会計のルールがどのようなものを理解することが必要不可欠**となります。本資料にて決算書を読むにあたり必要な最小限の知識をまとめましたので共に学習して参りましょう。



会計のルールが分かれば決算書が読めるようになる！

注 会計のルールのことを「**会計基準**」と言いますが、日本企業が適用できる会計基準には日本基準、米国基準、IFRS の三つの会計基準があります。近年 IFRS を適用する日本企業が増えてきておりますが、全国にある 410 万社の企業の内 250 社程度ですので**本資料**では**日本基準**を前提に説明して参ります。

## 2 決算書の種類

決算書には様々なものがありますが、特に重要なものに「貸借対照表」「損益計算書」「キャッシュフロー計算書」があり、これら三つが「財務三表」と言われているものです。

財務三表のうち「キャッシュフロー計算書」は非常に難解なため、今回はこのうち「貸借対照表」と「損益計算書」を中心に学びます。

## 3 決算書はいつ作る？

決算書は1年ごとに作成します。この1年間を「会計期間」といい、企業はそれぞれ任意の会計期間を設定出来ます。

例えば、2020年12月決算という表記がある場合には、その決算書は2020年1月1日～2020年12月31日の1年間を会計期間とする決算書であることを意味しています。

## 4 連結決算書とは

上場企業のように規模が大きくなると、親会社がいくつかの子会社をもつグループ企業として事業を展開することが多くなります。グループ企業の場合、親会社だけの決算書を見てもグループ全体の業績は分かりませんのでグループ企業全体の業績を示す決算書が必要となります。このような子会社の決算書も含めたグループ全体の決算書のことを「連結決算書」と言います。

なお、決算書のことを会計用語で「財務諸表」と呼びますので「連結決算書」と「連結財務諸表」は同義です。

# 貸借対照表

日本マクドナルドホールディングス株式会社(2702) 2020年12月期 決算短信

## 3. 連結財務諸表及び主な注記

### (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	58,624	62,741
売掛金	19,496	21,668
原材料及び貯蔵品	1,151	1,141
その他	6,033	5,562
貸倒引当金	△9	△9
流動資産合計	85,296	91,104
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	101,360	104,857
減価償却累計額	△49,088	△50,676
建物及び構築物(純額)	52,271	54,180
機械及び装置	17,180	17,872
減価償却累計額	△9,768	△9,448
機械及び装置(純額)	7,412	8,424
工具、器具及び備品	13,908	15,767
減価償却累計額	△7,255	△8,507
工具、器具及び備品(純額)	6,652	7,259
土地	18,288	19,386
リース資産	6,044	5,320
減価償却累計額	△5,442	△4,636
リース資産(純額)	602	683
建設仮勘定	1,174	1,637
有形固定資産合計	86,401	91,571
無形固定資産		
のれん	210	467
ソフトウェア	7,273	8,078
その他	694	694
無形固定資産合計	8,178	9,240
投資その他の資産		
投資有価証券	56	56
長期貸付金	9	9
繰延税金資産	4,718	4,501
敷金及び保証金	33,994	33,748
その他	4,361	3,991
貸倒引当金	△1,320	△1,237
投資その他の資産合計	41,819	41,068
固定資産合計	136,399	141,880
資産合計	221,696	232,984

日本マクドナルドホールディングス IR ライブラリー  
[https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/library\\_result/](https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/library_result/)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	983	793
リース債務	282	256
未払金	28,090	28,819
未払費用	6,872	6,972
未払法人税等	7,732	5,177
未払消費税等	2,259	2,523
賞与引当金	2,130	2,229
たな卸資産処分損失引当金	198	120
その他	5,427	3,110
流動負債合計	53,978	50,001
固定負債		
長期借入金	500	500
リース債務	420	551
賞与引当金	634	430
役員賞与引当金	422	203
役員退職慰労引当金	197	247
退職給付に係る負債	1,327	1,365
資産除去債務	4,041	3,956
繰延税金負債	-	3
再評価に係る繰延税金負債	291	291
その他	587	350
固定負債合計	8,422	7,901
負債合計	62,401	57,902
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,113	24,113
資本剰余金	42,124	42,124
利益剰余金	97,216	113,016
自己株式	△2	△2
株主資本合計	163,452	179,251
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	△4,242	△4,242
退職給付に係る調整累計額	84	72
その他の包括利益累計額合計	△4,157	△4,169
純資産合計	159,295	175,081
負債純資産合計	221,696	232,984

# 損益計算書

日本マクドナルドホールディングス株式会社(2702) 2020年12月期 決算短信

## (2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 (連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上高		
直営店舗売上高	197,102	193,109
フランチャイズ収入	84,660	95,222
売上高合計	281,763	288,332
売上原価		
直営店舗売上原価	169,728	170,261
フランチャイズ収入原価	55,938	59,814
売上原価合計	225,666	230,075
売上総利益	56,096	58,256
販売費及び一般管理費	28,078	26,966
営業利益	28,018	31,290
営業外収益		
受取利息	115	123
受取補償金	351	547
受取保険金	254	349
貸倒引当金戻入額	-	65
受取手数料	259	58
その他	292	276
営業外収益合計	1,273	1,421
営業外費用		
支払利息	27	15
貸倒引当金繰入額	701	-
店舗用固定資産除却損	887	990
その他	187	279
営業外費用合計	1,804	1,286
経常利益	27,487	31,425
特別損失		
固定資産除却損	383	432
減損損失	149	438
特別損失合計	532	870
税金等調整前当期純利益	26,954	30,554
法人税、住民税及び事業税	9,531	10,140
法人税等調整額	537	226
法人税等合計	10,069	10,367
当期純利益	16,885	20,186
親会社株主に帰属する当期純利益	16,885	20,186

日本マクドナルドホールディングス IR ライブラリー  
[https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/library\\_result/](https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/library_result/)

## Section2 貸借対照表 (B/S : Balance Sheet)

### 1 貸借対照表の内容

貸借対照表は「**資産**」、「**負債**」、「**純資産**」の3つのカテゴリーに分類されており、以下のような構造になっています。

貸借対照表

資 産	負 債
	純資産

### 2 資産とは

もしいきなり「あなたは、どんな**資産**をもっていますか？」と聞かれた場合、皆様方は何と答えるでしょうか。現金や時計、人によっては車や家などを思い浮かべる人もいるかも知れませんが、一般的に資産と聞くと家などの贅沢品を思い浮かべる方が多いかと思いますが、**会計の世界においては「持っているプラスになるもの」は基本的にすべて資産に該当** (注) します。

企業の考え方も個人と同様です。聞きなれない言葉こそあるかも知れませんが**企業がにとって「持っているプラスになるもの」は資産に該当**します。

注 家族や友人などはかけがえのないものであり「持っているプラスになるもの」ですが、これらは売却することも金額をつけることもできませんので**資産には該当**しません。企業に置き換えると**人材やノウハウは非常に大切なものですが資産には該当**しませんので留意が必要です

### 3 負債とは

「あなたが返さなければならないもの」には、どんなものがありますでしょうか。友人からお金を借りていたり、奨学金を借りているという方もいらっしゃるかも知れません。

これらの「これから支払わなくてはならないもの」のすべてが企業にとっての負債に該当します。

### 4 純資産とは

今上記2. 3で「資産は持ってプラスになるもの」「負債はこれから支払わなくてはならないもの」と学びました。例えば資産が300万円あったとして負債が100万円あったとしましょう。このとき皆様方が自由に使えるお金はいくらあると考えられるでしょうか？

資産は売ってしまえばお金になるため、資産300万円から返さなければならない負債100万円を引いた200万円が自由に使えるお金と考えられるかと思えます。

このように、**資産と負債の差額が「純資産」**であり、**純資産は「自分が自由に使える元手」**を意味しています。

#### 【純資産の求め方】

$$\text{資産} - \text{負債} = \text{純資産}$$

これらの、**資産と負債・純資産を一覧する表を「貸借対照表」と**言います。

## 5 貸借対照表の形式

貸借対照表には、「資産」「負債」「純資産」を次のように記載します。

貸借対照表は左側に資産を書き、右側に負債と純資産を書くというルールになっており、左側の金額と右側の金額は必ず一致します。

貸借対照表

もっているもの	資 産	負 債	返さなければ ならないもの
		純資産	自由に使えるお金 (差額)

資金の運用形態

資金の調達手段

### Section3 貸借対照表の細かい分類

上記 Section 2 において貸借対照表は資産・負債・純資産の部に区分されていると説明しましたが、より詳細には以下のように区分されています。

貸借対照表

資 産	流動資産 (1年以内に回収)	負 債	流動負債 (1年以内に返済)
	固定資産 (1年以降に回収)		固定負債 (1年以降に返済)
			純資産 (資本金と過去の利益)

資産は「流動資産」と「固定資産」に分類できます

- ・ 流動資産・・・一年以内に現金化できる資産
- ・ 固定資産・・・一年を超えて保有する資産

負債は「流動負債」と「固定負債」に分類できます

- ・ 流動負債・・・一年以内に返済しなくてはならない債務
- ・ 固定負債・・・支払期限が一年を超える債務

※純資産は「株主資本」と「評価・換算差額等」、「新株予約権」に分類されますが、難解なため本資料では割愛致します。

## Section4 損益計算書 (P/L : Profit and Loss Statement)

### 1 損益計算書の内容

#### 損益計算書

I	売上高	100,000	}	営業損益計算の区分
II	売上原価	<u>60,000</u>		
	売上総利益	40,000		
III	販売費及び一般管理費	<u>5,000</u>	}	経常損益計算の区分
	営業利益	35,000		
IV	営業外収益	5,000	}	純損益計算の区分
V	営業外費用	<u>10,000</u>		
	経常利益	30,000	}	純損益計算の区分
VI	特別利益	2,000		
VII	特別損失	<u>3,000</u>		
	税引前当期純利益	29,000		
	法人税、住民税及び事業税	<u>12,000</u>		
	当期純利益	17,000		

このように損益計算書の計算区分は主に3つに分けられますが、**大切なのは本業から稼ぎ出した利益(=営業利益)を計算する営業損益計算の区分**です。本業から得た利益を示す営業利益がプラスであるということは、本業から利益を生み出すことに成功していることを意味し非常に重要な利益指標になります。

【損益計算書の区分構造】

売上高	売上原価					
	売上 総利益 (粗利)	販管費				
		営業利益	営業外損益			
	経常利益		特別損益			
		税引前 当期 純利益	法人税			
	当期 純利益					

【重要な科目名称の説明】

- ・売上総利益（＝売上高－売上原価）  
商品の原価に対してどれほど利益を上乗せして売り上げたかを表した利益のこと。一般的に「粗利」と呼ばれることもある。
- ・販売費及び一般管理費  
会計期間に発生した費用の内、商品やサービス一つ一つには対応しない費用のこと。一般的に「販管費」と呼ばれることもある。  
Ex) 宣伝広告費、給料、福利厚生費、自動車経費、接待交際費
- ・営業利益（＝売上総利益－販管費）  
本業で稼ぎ出した利益のこと。

【参考：上記以外の名称】

・営業外損益

本業以外の収益・費用をまとめたもの。

Ex) 受取利息、有価証券利息、株式売却益

・経常利益（営業利益＋営業外損益）

営業利益に営業外損益が加味され、「通常の活動での儲け」を表したもの。

・特別損益

事業を運営する上で継続的に発生する収益・費用ではなく、本業とは無関係に一時期だけ臨時的に発生した収益・費用のこと。

Ex) 保険差益、固定資産売却益、減損損失

・税引前当期純利益（経常利益＋特別損益）

特別損益も加味され、「会社全体のもうけ」を表したもの。法人税を考慮する前の利益。

・当期純利益

当該決算期におけるすべての要因を考慮した純粋な利益のこと。一般的に「純利益」や「最終利益」と呼ばれることもある。

## Section5 貸借対照表と損益計算書の関係

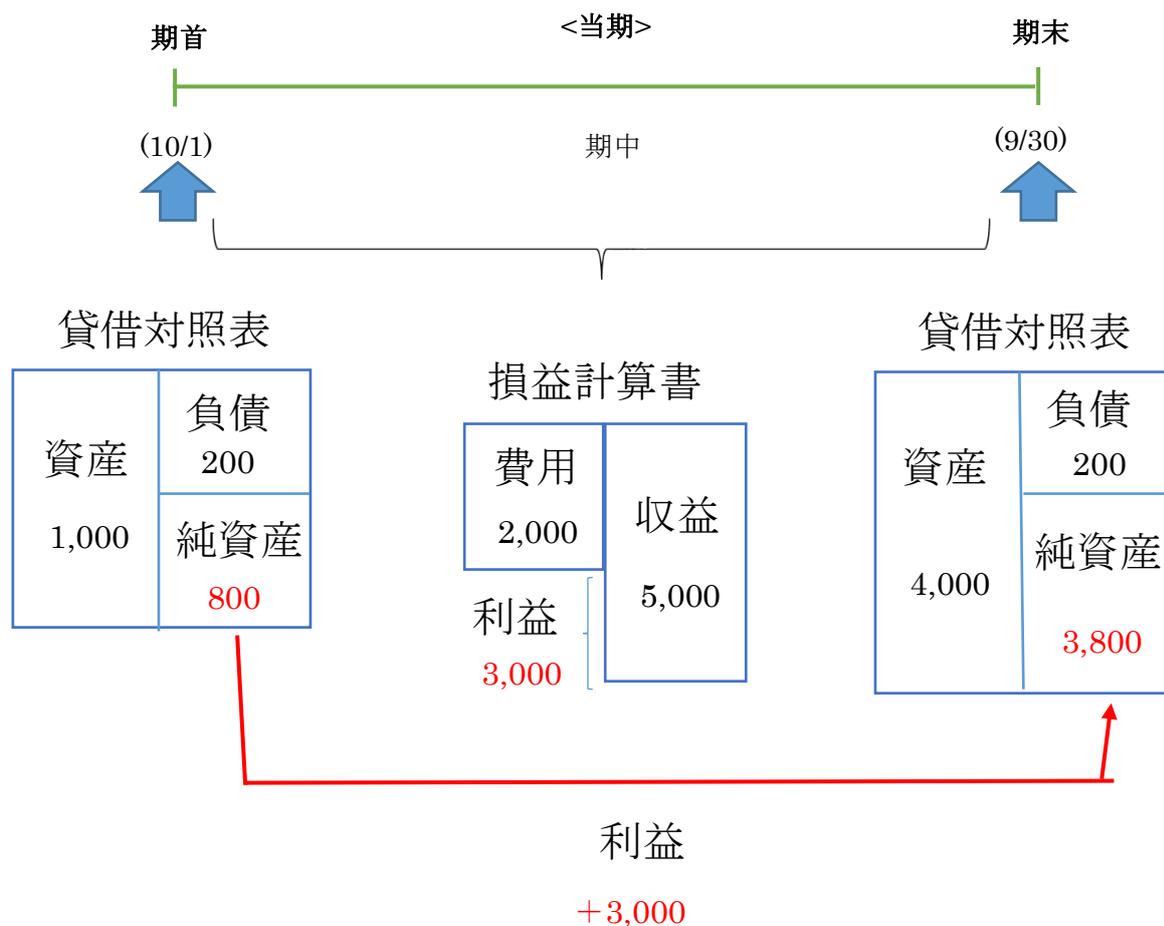
### 1 財務諸表の対象期間

貸借対照表と損益計算書は記載される項目の違いはもちろん、作成される対象期間が異なってきます。

貸借対照表は**一定時点**ごとに作成されます。(ストックの概念)

損益計算書は**一定期間**ごとに作成されます。(フローの概念)

そして損益計算書と貸借対照表のつながりも確認しておきましょう。例えば期首の資産が1,000、負債が200、純資産が800の貸借対照表があったとしましょう。仮に期中に3,000の利益を上げたとするとその利益は期末の純資産を構成することとなります。つまり**損益計算書の利益は貸借対照表の純資産(注)に流れる**という関係になっています。図に表すと以下のようになります。



注 正確には純資産の中の**利益剰余金**に流れます。

## Section6 補足論点

### 1 数字の表記方法

桁の大きな数字を決算書等に記載する際は、**三桁ごとにカンマで区切る**のが一般的です。欧米の言語文化から来ているため日本人には馴染むのに時間が掛かるかもしれませんが、見慣れていくことで徐々に早く読めるようになってきます。

1,000 → 千 (=thousand)  
1,000,000 → 百万 (=million)  
1,000,000,000 → 十億 (=billion)  
1,000,000,000,000 → 一兆 (=trillion)

### 2 単位の表記に関する留意点

大きな数字である際、「単位：千円」などという表記があることがあります。これは「**後ろに0を3つくっつけて読んでください**」という意味です。同様に「単位：百万円」と表記があった場合は、後ろに0を6つくっつけて読みます。また決算書上、漢字と数字がミックスされた表記がなされることもあります。

例) 10千円 → 10,000 (=1万円)  
100百万円 → 100,000,000 (=1億円)

### 3 売上高伸び率の計算方法

売上の増加を示す際には、前年比**売上高〇%増**と表記することが多いです。

$$\text{【計算式】} \\ \text{売上高伸び率 (\%)} = \frac{\text{当期売上高} - \text{前期売上高}}{\text{前期売上高}} \times 100$$

設例：P.7のデータを用い、日本マクドナルドホールディングスの前期から当期にかけての売上高伸び率を計算せよ。

解答（小数点第2位を四捨五入）

→

### 4 増収と増益の違い

**増収**（⇔**減収**）：前期決算より**売上**が**増加**(減少)すること

**増益**（⇔**減益**）：前期決算より**利益**が**増加**(減少)すること

例) 売上も利益も増加した → **増収増益**

売上は増加したが利益は減少した → **増収減益**

売上高伸び率の解答：2.3%

## Chapter 2 財務諸表分析

### Section1 重要な経営指標

#### 1 経営指標を学ぶ必要性

正しい経営判断や投資判断を行うためには、会社の財務状況を正確に分析し、現状把握をしなければなりません。財務諸表の数値を分析することで分析した会社が今後も倒産する可能性が低いかなど、今後も成長するかなど、自分の勤めている会社の状況が把握できるようになるだけでなく、転職先や投資先を見極めることにも役立ちます。経営指標は非常に数が多いので、以下有名な指標に絞って説明致します。

#### 2 収益性を測る指標

仮に売上をたくさん上げていたとしても、利益を上げなくてはいずれ資金が底をつき企業は倒産してしまいます。そのため、売上に対してどれだけの利益を上げているかを測る指標が存在します。これが収益性を測る指標であり、代表的なものに「売上高営業利益率」があります。この指標により売上高に対してどれだけ本業で利益を稼げているかを知ることが出来ます。

#### 【計算式】

$$\text{売上高営業利益率 (\%)} = \frac{\text{営業利益 (p.14)}}{\text{売上高}} \times 100$$

### 3 安全性を測る指標

資金調達の方法には元手(=資本/純資産)と借入(=負債)の二通りがあります。負債はいずれ返さなければならない金額の為、この負債があまりに多すぎると返済不能になり倒産する可能性が高まることとなります。負債を持つことは必ずしも悪ではないのですが(詳細は割愛)、やはり**返済義務のない元手が多い方が企業としては安定している**と言えます。このような企業の安全性を測る指標の代表的なものに「**自己資本比率**」というものがあります。

#### 【計算式】

$$\text{自己資本比率 (\%)} = \frac{\text{純資産 (p.12)}}{\text{総資産}} \times 100$$

- ※ 総資産はすべての資産の合計値を指します
- ※ 一般的には 50%を上回ると優秀とされますが業界により変動します

### 4 効率性を測る指標

企業は調達した資金を使って資産を購入し、当該資産を通じて利益を獲得しています。仮に総資産額が同じ A 社と B 社があったとしましょう。もし A 社が 1,000 の利益を、B が 1,800 の利益を生み出していたとすると B の方が効率よく資産を運用できていると分かると思います。このような資産の運用の効率性を測る指標に「**総資産利益率(=ROA)**」や「**株主資本利益率(=ROE)**」があります。

#### 【計算式】

$$\begin{array}{l} \text{総資産利益率 (\%)} \\ \text{(ROA)} \end{array} = \frac{\text{当期純利益 (p.15)}}{\text{総資産}} \times 100$$

- ※ 上記の式の分母を純資産に変えたものが ROE となります。

## Section2 競合他社比較

### 1 競合他社と比較する必要性

Section 1 で学んだ経営指標の値を算出した後は当該数値が業界平均ない競合他社と比較して優れているか否かを判断する必要があります。競合他社と比較することで初めて、自社の弱みを分析でき経営に役立てることが出来たり、投資先として有望か否かを判断することが可能となります。

### 1 財務諸表分析

以下、先ほど経営指標を算出した日本マクドナルドホールディングスと外食産業の競合他社の経営指標を比較してみましょう。

	業界内 順位	売上高 営業利益率	自己資本比率	総資産利益率 (ROA)
マクドナルドHD	3位	10.9%	75.1%	8.7%
ゼンショーHD	1位	2.0%	21.6%	0.6%
すかいらーくHD	2位	△5.4%	25.8%	△3.9%
ロイヤルHD	13位	△24.0%	19.8%	△27.0%

このように比較してみると外食チェーンは新型コロナウイルスの影響で軒並み業績を落とした中、業界3位の日本マクドナルドHDが収益性・安全性・効率性の3つの全ての観点で競合他社を圧倒していることが分かります。これはマクドナルドHDがテイクアウト重要に早急に対応できたからという理由も大きいですが、財務的観点から特徴的な点を指摘すると実は日本マクドナルドHDは業界内でも圧倒的に抱えている固定資産が少ないという特徴が挙げられます。詳細は割愛致しますが固定資産を大量に抱えている会社は今回のような不況に陥った際に赤字になりやすい傾向にあります。もし企業を考えられている方は固定資産を含めた初期投資は出来るだけ最小限にすることをお勧め致します。本資料では3つの経営指標しか紹介することが出来ませんでした。これ以外にも様々な経営指標がございますのでまた機会がありました際に紹介したいと思います。

### Section3 キャッシュフローの重要性

#### 1 黒字倒産とは

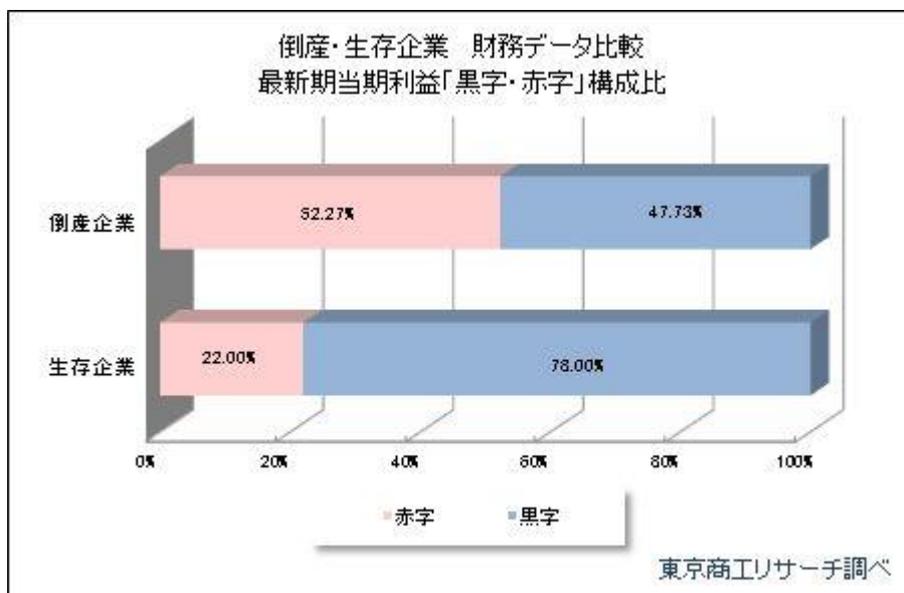
皆様は企業がどのような状況に陥ると倒産すると予想しますか？

真っ先に思い浮かぶのは赤字になることだと思います。確かに赤字は倒産の一つのきっかけになるかも知れませんが、実は赤字企業の倒産割合は約52%に留まります。裏を返せば**約48%は黒字企業でありながら倒産している**こととなります。(東京商工リサーチ 2018 より)

では実際には何が倒産の直接的な原因になっているのでしょうか。

**答えは現金が尽きたとき**です。企業は仮に黒字であっても現金が尽きれば支払いが滞り、やがて倒産するという流れを辿ります。このように黒字でありながら現金が不足することを「勘定あって銭足らず」といい、黒字の企業が倒産することを「**黒字倒産**」と言います。

会社を運営する際には、黒字であるか否かだけでなく**現金が十分にあるかどうか (キャッシュフロー)**にも注意を払って活動する必要があります。



倒産企業の約半数は黒字の会社！  
会社は現金が尽きた時に倒産する！

## 2 黒字倒産が多発する理由

黒字倒産が多発する理由の一つに、**会計上の収益・費用計上のタイミングと現金の収支のタイミングにズレがある**ことがあげられます。例えば固定資産に関しては現金の支払は基本的に購入時に行われますが、費用である減価償却費の計上は耐用年数にわたり行われます。このように**会計上の収益・費用計上のタイミングと現金の収支のタイミングがずれる**ケースはとて多く、黒字に安心して現金が枯渇していることに気づかず、倒産するケースが後を絶ちません

また、**一般的な会社は仕入代金の支払が先行して売上の入金が後になるのが通常**です。よって各企業は売上の入金があるまで仕入代金の支払いのための資金を準備しておかなくてはなりません。この資金のことを「運転資金」といい、これが枯渇し支払いが滞れば倒産の引き金となってしまいます。

以上のように、私たちは**現金の収支のタイミングを正しく把握する必要**があり、これを把握するための表が Section 1 で簡単に紹介した「**キャッシュフロー計算書**」と呼ばれるものです。キャッシュフロー計算書の作成は非常に難解であり初学者の方には難しいと思われるので本資料では割愛致しますが、現金収支は非常に大切であるということを理解頂ければと思います。参考までに簡易的なキャッシュフローの求め方を紹介致します。

### 【参考：簡易的なキャッシュフローの求め方】

多少不正確ではありますが、以下の計算式を用いることで簡易的なキャッシュフローを求めることが可能です。

#### 【計算式】

(当期純利益＋減価償却費) － (借入金の返済元本＋保険の資産計上額)

## Chapter 3 参考資料

### Section1 貸借対照表の主な勘定科目一覧

#### 【資産の部】

現金及び預金	・・・貨幣・通貨・銀行預金等
売掛金	・・・商品をツケで販売した場合に生ずる債権
棚卸資産	・・・お客様に販売する品物。商品。
貸付金	・・・他者に金銭を貸し付けた場合に生ずる債権
建物及び構築物	・・・会社の事務所や倉庫・工場など
機械及び装置	・・・商品を製造するために必要な固定資産
工具、器具及び備品	・・・コピー機・ファックス・電話機・パソコン等
リース資産	・・・リースしている資産（営業車などはリースが多い）
建設仮勘定	・・・建設途中の建物
のれん	・・・他社を合併・買収した際に生じた超過収益力
ソフトウェア	・・・自社保有のシステム等
投資有価証券	・・・保有する有価証券
繰延税金資産	・・・税金の前払い分

#### 【負債の部】

買掛金	・・・商品をツケで購入した場合に生じた債務
未払金	・・・商品以外を購入した場合に生じる債務
リース債務	・・・リース料の未払い分
未払法人税	・・・法人税の未払い分
貸倒引当金	・・・将来回収できないことが見込まれる債権の金額
賞与引当金	・・・将来賞与の支払いに充てる金額
ポイント引当金	・・・将来顧客からポイントが使用されると見込まれる金額
資産除去債務	・・・将来固定資産を除去する際に発生する費用
繰延税金負債	・・・税金の未払い額

#### 【純資産】

資本金	・・・株主からの払込金額
利益剰余金	・・・過去の純利益の積み上げ分
自己株式	・・・自社が発行した株式の自社保有分

## Section2 競合他社決算書

# 貸借対照表

ロイヤルホールディングス(株) (8179) 2020年12月期決算短信

### 4. 連結財務諸表及び主な注記

#### (1) 連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,443	13,884
売掛金	7,003	4,662
たな卸資産	2,568	2,047
その他	4,320	4,976
貸倒引当金	△14	△7
流動資産合計	18,322	25,563
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	53,520	51,814
減価償却累計額	△38,771	△38,578
建物及び構築物 (純額)	14,748	13,235
機械装置及び運搬具	9,093	9,303
減価償却累計額	△6,456	△6,733
機械装置及び運搬具 (純額)	2,636	2,569
工具、器具及び備品	26,708	26,273
減価償却累計額	△21,872	△22,471
工具、器具及び備品 (純額)	4,835	3,802
土地	10,414	10,334
リース資産	32,960	32,347
減価償却累計額	△9,596	△11,394
リース資産 (純額)	23,363	20,952
建設仮勘定	138	47
有形固定資産合計	56,138	50,942
無形固定資産		
投資その他の資産	711	671
投資有価証券	10,328	13,911
差入保証金	15,325	14,228
繰延税金資産	1,375	55
その他	346	532
貸倒引当金	△8	△8
投資その他の資産合計	27,368	28,719
固定資産合計	84,218	80,333
資産合計	102,540	105,896

ロイヤルホールディングス IR ライブラリ

<https://www.royal-holdings.co.jp/ir/accounts/>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当連結会計年度 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	3,892	2,810
短期借入金	350	24,500
1年内返済予定の長期借入金	1,106	2,952
リース債務	1,804	2,337
未払法人税等	877	291
未払退職金等	—	1,373
賞与引当金	29	1
役員賞与引当金	52	—
ポイント引当金	233	266
株主優待費用引当金	141	150
店舗閉鎖損失引当金	—	31
その他	8,604	12,012
流動負債合計	17,091	46,728
固定負債		
長期借入金	2,097	2,695
リース債務	26,143	29,810
繰延税金負債	446	889
株式給付費用引当金	621	689
資産除去債務	3,686	3,757
その他	424	313
固定負債合計	33,420	38,156
負債合計	50,512	84,884
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	13,676	13,676
資本剰余金	21,866	21,861
利益剰余金	16,738	△11,856
自己株式	△3,863	△3,842
株主資本合計	48,419	19,838
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,410	1,059
為替換算調整勘定	△4	△1
その他の包括利益累計額合計	2,405	1,058
非支配株主持分	1,203	114
純資産合計	52,028	21,011
負債純資産合計	102,540	105,896

ロイヤルホールディングス IR ライブラリ  
<https://www.royal-holdings.co.jp/ir/accounts/>

# 損益計算書

ロイヤルホールディングス㈱ (8179) 2020年12月期決算短信

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2019年1月1日 至 2019年12月31日)	当連結会計年度 (自 2020年1月1日 至 2020年12月31日)
売上高	136,546	80,349
売上原価	43,006	27,719
売上総利益	93,540	52,630
その他の営業収入	4,031	3,954
営業総利益	97,571	56,584
販売費及び一般管理費		
販売手数料	2,884	1,768
従業員給料及び賞与	31,701	26,703
法定福利及び厚生費	4,894	4,398
水道光熱費	5,308	3,971
賃借料	17,212	14,400
修繕維持費	2,294	1,962
減価償却費	5,839	5,438
のれん償却額	31	—
その他	22,756	17,209
販売費及び一般管理費合計	92,922	75,853
営業利益又は営業損失(△)	4,648	△19,269
営業外収益		
受取配当金	134	122
持分法による投資利益	381	—
協賛金収入	83	72
助成金収入	—	1,355
その他	300	436
営業外収益合計	901	1,986
営業外費用		
支払利息	852	946
持分法による投資損失	—	1,540
その他	58	86
営業外費用合計	910	2,573
経常利益又は経常損失(△)	4,639	△19,855
特別利益		
投資有価証券売却益	28	411
受取補償金	138	—
受取保険金	74	—
特別利益合計	240	411
特別損失		
固定資産除売却損	350	421
減損損失	642	5,330
店舗閉鎖損失	—	223
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	31
早期割増退職金	—	1,373
退職給付制度終了損	—	216
特別損失合計	993	7,598
税金等調整前当期純利益 又は税金等調整前当期純損失(△)	3,887	△27,042
法人税、住民税及び事業税	1,959	△512
法人税等調整額	△59	2,016
法人税等合計	1,899	1,504
当期純利益又は当期純損失(△)	1,987	△28,546
非支配株主に帰属する当期純利益 又は非支配株主に帰属する当期純損失(△)	63	△1,014
親会社株主に帰属する当期純利益 又は親会社株主に帰属する当期純損失(△)	1,923	△27,532

-memo-